

奨励賞



Gradation Wall (グラデーションウォール)

和田 翔太(わだ しょうた)

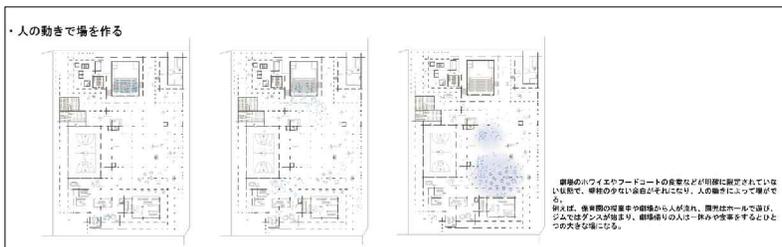
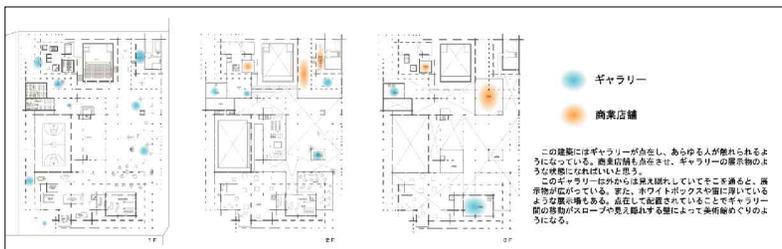
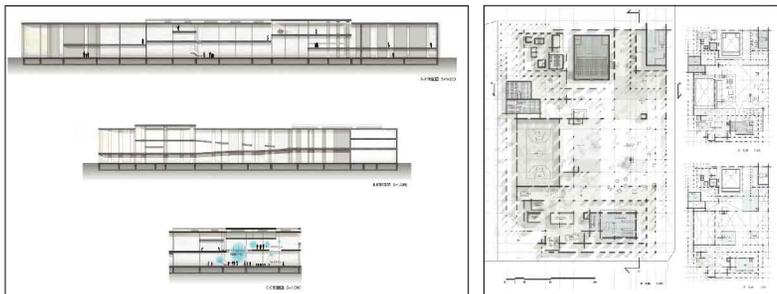
東京電機大学 工学部 建築学科



近年の都市、特に臨海地区では埋め立てが進み、工場が撤退した跡地で再開発が行われ、人口の増加とともに、大型店舗や公共施設が建設される。

郊外型の複合施設とは違い、外部空間から内部空間へ突然身を置くのではなく、徐々に外部が内部になり「いつの間にか」内部に入り込んだと感じられるような複合建築を計画した。主な機能は、スポーツジム、小ホール、保育園、フードコート、商業店舗、ギャラリーからなる複合施設です。

都市から切り離された内部空間ではなく、都市から連続した状態を目指しました。



【講評】この作品は、江東区有明のゆりかもめ東京臨海新交通臨海線有明テニスの森駅前敷地への提案である。作者は「徐々に外部が内部になり、いつの間にか内部に入り込んだと感じられる空間」ということを「柱」と「壁」という構成要素で表現している。「柱」「壁柱」「壁」の様々な寸法(幅)の垂直要素を無数に配置し、それによって空間に密度を与えている。この様々な密度の空間をさまようことで、外部と内部という境界を感じる事無く、いつの間にか目的地へ到達するというのである。トップライトからの自然光に導かれるように集まってくる人の動きで、余白空間に場が形成されるとい、時間と共に変化する空間の提案は魅力的である。陰影を付けたドロ잉はこの空間をうまく表現しているが、柱と壁によって構成されたドライな空間の中、利用者によって場が形成され、アクティビティが生まれた時の表現があれば、作者の空間イメージがもっと伝わったのではないかなと思う。

(審査員：中野正也)